

窓から差し込む光明に未来が見える！

<3年生同窓会入会式 校長挨拶を通して>

下記は、昨日2月26日の3年生の同窓会入会式で話をした内容です。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

3月5日の卒業式までカウントダウンとなりました。

卒業と同時に皆さんは、この新津第二中学校を卒業した先輩方の仲間入りをします。まだ、卒業前ではありますが、今日は一足早い同窓会への入会をお祝いする会となります。

もしかしたら、今ここにいるこの校舎は、何らかの事情で、新しく建て替えられたり、この場所には存在しないことになるかもしれません。いつの日にか、「新津第二中」という名前そのものがなくなることだってないとは限りません。

でも、この新津第二中学校の卒業生であるという一点のみでつながる同窓会は、学校の存在そのものが、皆さんの心の中にずっとずっと生き続ける無形の宝物だと思っています。

今年で創立76周年を迎えた新津第二中学校ですが、これまで11,816人の先輩方が、この学校を巣立っていきました。皆さんを加えて卒業生は12,023になります。卒業は、母校や友人や後輩や先生方との別れでもあります。それと同時にこの新津第二中学校を心のふるさととする諸先輩や、君たちが卒業した後に卒業するたくさんの方の後輩の皆さんとの、新たな出会いへの扉でもあります。

今後、同窓生としていろいろな出会いがあり、お互いが助け合う場面や、同窓生として同窓会の皆さんの笑顔に救われる場面も出てくるかもしれません。そんな新たな出会いを誘う同窓会への入会を心からお祝します。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

自分も、年に何度か同窓会の集まりにいろいろな立場で出席しますが、自分にとってはそれはとてもとても楽しく懐かしいひとときです。

しかし、この頃、「同窓生」とか「同級生」という言葉を耳にすると、実は、拉致被害者の「横田めぐみ」さんのことが脳裏をよぎることが多々あります。

その理由として、拉致被害者家族とともに、拉致問題に熱心に取り組んでいる、めぐみさんの母校である新潟小学校や寄居中学校の同級生を中心とした「横田めぐみさんと再会を誓う同級生の会」の熱心な活動が思い出されるからです。一昨年、ある研修会の記念講演会で聴いた蓮池薫さんの話に衝撃を受けました。

今から約20年前の平成14年(2002年)10月15日、拉致被害者5人が日本に帰国するビックニュースが飛び込んできました。蓮池さんはそのうちの一人です。

当時、私が勤務する中学校にたくさんの報道陣が押し寄せました。何事かと驚きましたが、私の隣のクラス担任の先生が横田めぐみさんの中学校の同級生で、コメントを求めに取材に押し寄せて来たのです。

講演での、拉致された当日の生々しい回想、帰国までの北朝鮮での苦難の生活、帰国後の問題解決への道のり、等々淡々と話す蓮池さんの姿に、想像を絶する出来事の重さをあらためて痛感しました。

引き続き登壇したのが、「横田めぐみさんと再会を誓う同級生の会」代表の方でした。昨年度、現2年生に学校で講演してくれた方です。彼は、小学校の卒業文集のコピーを携え、蓮池さんと同様、拉致問題の解決を切々と訴えたのです。

その卒業文集の中で、めぐみさんは、「将来の私」と題して、将来自分が思い描いている職業等をいくつか嬉しそうに掲げ、最後にこう綴っています。

「これはあくまで私の理想だが、能力と夢と現実につながった将来にしたいと思っている。」と……。しかし、現状は、残念ながら彼女の思い描いた将来とは真逆なものとなりました。

拉致問題を風化させないために、また大切な人権教育の一環として、学校でもDVD『めぐみ』等の教材を活用しながら授業を行っています。当事者でしかわからない苦悩やせつなさは計り知れないばかりですが、今後も引き続き真剣に取り組まなければならない指導内容だと考えています。

さて、「窓」とは「窓のある部屋」を意味することから「学校」を表すと言われています。確かに、窓のない学校などはないと思いますが、明治28年(1895年)に当時の文部省が設定した学校建設のルールの名残で、学校の教室は次のように造られていることが多いそうです。

- ① 教室の形状は長方形
- ② 教室の窓の向きは、南または西南、東南
- ③ 外からの光が生徒の左側から入るように

新津二中は立地条件や改築・増設が続いた関係でこのルールには則っていない部分はあるのですが、全国的には、①・②のような構造になっている学校がかなり多いと言います。それは、明治時代は照明器具がなかったために外からの明かりを取り入れる必要があったからです。

③は、右利きの人が多いからだと言われています。つまり、廊下側とは反対の外が見える窓側が、子どもたちの左側にくるということです。

同じ窓のある部屋、同窓、つまり同じ学校、同じ学級で過ごした仲間の組織が同窓会であり、その当事者が同窓生と言われている所以です。

いよいよ卒業まであと4日。長い冬に別れを告げ、教室には白い光が燦然と差し込む季節が再びやってきます。光は希望の象徴です。卒業生の未来にも、そして拉致問題にも、必ずや希望の光が差し込んでほしいものです。

春よ、春よ、春よ来い！早く来い！！